



節目のとき ～後期への決意～



僕の後期の目標は、2つあります。1つ目は、定期テストでこれまでよりもよい点数を取ること。前期のテストでは、しっかりと復習できていないことがあり、あまり満足のいく結果ではありませんでした。後期はその反省を活かし、ワークやプリントなどをしっかりと繰り返して、苦手な内容を無くします。

2つ目は、合唱祭の伴奏を頑張ることです。まずはミスをしないようにすること。そのために沢山、練習をして、何度弾いても間違えないようになりたいです。さらに、歌に合わせて盛り上がる所は大きくするなど、曲に合わせて、弾き方を変えられるようにしたいです。そのために、曲をよく聴き、その曲のイメージ通りになれるよう練習を頑張ります。合唱祭まであと10日しかありません。毎日、練習を重ね、合唱祭の本番を迎えられるように頑張ります。

後期は、この2つの目標に向かって頑張り、自分自身の成長を実感できるようにしたいと思います。

1年生代表 ○○ ○○ さん



後期に頑張りたいことは3つあります。1つ目は、勉強です。来年は受験生です。今から勉強を頑張り、苦手な部分を少しでも減らしていきたいです。そのために、テスト前だけではなく、日々計画を立てて取り組む、きちんと提出物を出す、授業で先生の話当真に聴く、といったことを頑張ります。

2つ目は、積極的に行動することです。例えば、これから生徒会選挙が始まります。自分から委員長や生徒会に立候補していきたいです。それだけでなく、3年生になるに向けて、日常生活でも積極的に動き、全校から頼られる3年生になりたいです。3つ目は、協力することです。これから合唱祭や修学旅行の準備など、様々なことがあります。みんなと協力して、思い出にのこるような行事にしていきたいです。

2年生代表 ○○ ○○ さん



私が後期に頑張りたいことは、勉強です。前期では、授業やテストを通して、3年生になり勉強がさらに難しくなったことを感じました。基礎を理解できたつもりでも、応用になると途端にわからなくなることが多くありました。特に、苦手教科ではモチベーションが上がらず、教えてもらってもピンとこないことが多く、結果が思うように伸ばせず、悪循環になっていました。

受験まで半年を切っているなので、まずは苦手な教科を中心に頑張ります。そのために、普段の授業をこれまで以上に集中して聴くことを意識し、わからないことをそのままにせず、ワークをしっかりと復習することを心がけたいです。

苦手を克服することは大変です。怠けず努力したいです。後期で頑張りを受験だけでなくその先の高校生活にも繋げられるように、自分の成長を感じられる半年としたいです。

3年生代表 ○○ ○○ さん





合唱祭 it's 唱 time ～最響の歌声を～



< 3 学年合唱 >

私たちが歌うのは「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」です。この曲には、大きな悩み、不安を抱え、心が折れそうな時こそ、自分の声を信じて歩んでほしい、という想いが込められています。

私たちが、特に練習したのは、場面ごとの歌い方の変化です。歌詞のひとつひとつを柔らかく、丁寧に、時には力強く。パッションをもって練習することを心がけてきました。指揮、伴奏、歌声。この3つが重なってできる、最高のハーモニー。私たちの3年間の集大成を、ぜひ最後までお聴きください。

学級紹介 ○○ ○○ さん

みなさん、合唱祭はどうでしたか。(楽しかった～！パチパチパチ！)

わくわくの合唱祭になりましたか。(なった～！拍手！)

今年の合唱祭のスローガンは「it's 唱 time ～最響の歌声を～」でした。「唱」や「響」とすることで、より合唱祭らしいものとなりました。そして、みなさんどの学年も、最響の歌声の合唱だったと思います。

1 年生は始め、緊張していましたか？初めての合唱祭で、分からないことや緊張したことがあったと思います。ひとつひとつの言葉をきれいにして、繰り返す言葉を一番、頑張っていたと聴きました。本番は響きましたか。(は～い) 来年もあります、みなさん、頑張ってください。そして2年生。昨年の経験を活かして合唱をよくすることができましたか。(はい！) 2年生は女子が少なく苦労も多かったと聴きました。初めは歌声がまとまらず、大変だったと。でも、本番では全員の歌声がまとまっていたな、と思いました。最後に3年生。今まで、合唱祭以外でも沢山のことをしてきました。最後、全員がよりひとつにまとまることができたな、と思いました。初めは上手いかないということが多くあったけれど、最後はいつもしっかり協力して。今回も最高の合唱祭にしたな、と思いました。本当におつかれさまでした。最後の合唱祭はとてもよい思い出になりましたね。そして、保護者の皆様、地域の皆様、本日はお越しくださり、ありがとうございました。私たちの合唱はいかがでしたか。(大きな拍手) ありがとうございます。私たちは一生懸命に練習し、最高の合唱祭とすることができました。

これで合唱祭にかかわる全ての活動が終わりますが、これからの学校生活に活かしていきましょう。

合唱祭実行委員長 ○○ ○○ さん



演奏会后、演奏者に感謝と感動を伝える生徒たち

みなさん、わくわくした合唱祭にできましたか！(できた～！)

合唱も、演奏も、すべて素晴らしかったです。これで合唱祭は最後ですが、本当に楽しい合唱祭となりました。以上で、令和7年度合唱祭を終わります。

副実行委員長 ○○ ○○ さん





小合デザイナーの取組 ～想いをひとつに～

体育祭や合唱祭の活動を通して学んだこと。そのひとつに“仲間との協働”がある。

目的をひとつにして共有し、互いに力を尽くし、協力し合えたからこそ、僕たちは大きく成長できた。だから今、考えたい。何を目的に小合中で生活するのか。これは、どんな生徒になりたいか、ということ。同様に考えてみたい。何を目的に小合の地域で生活するのか。これは、どんな人間で在りたいのか、ということ。…こんな想いを共有し、小合デザイナーが立ち上がりました。

代表の ○○ ○○ さん、○○ ○○ さん、○○ ○○ さんを中心に、何度も検討を繰り返しました。全校にアンケートもしましたね。10月28日（火）の午後、小合中の学校運営協議会の委員や両小の地域教育COをお招きして、語り合いました。次回の11月28日（金）には、両小の学校運営協議会の委員や小合コミ協ミラビの皆様、秋葉区社会福祉協議会の皆様、そして両小の児童とも語り合いたい、とのこと。

小合デザイナーの取組は、まだまだ続きます。

<小合デザイナー>

◎代表 ○リーダー

◎———— さん ◎———— さん ◎———— さん

○———— さん ○———— さん ○———— さん ○———— さん ○———— さん

———— さん ———— さん ———— さん ———— さん ———— さん

———— さん ———— さん ———— さん ———— さん

或の目指す人間像や小合中の目指す生徒像を決められると聞いて、ぜひともと思って小合デザイナーに入りました。目指したいことや目標にしたいことを、自分たちで決められる機会はあまりありません。そして、残り約2年半の目標が、ないよりもあった方が楽しく過ごしていけるとと思っています。

僕は、特に小合中の目指す生徒像を考えてきました。小合中の生徒、そして先生方が、わくわくしながら楽しく過ごせるような生徒像を考えています。これからも、よりよい生徒像、よりよい人間像を考えて、よりよい小合地域にしていきたいです。

小合デザイナー 代表 ○○ ○○ さん

僕が小合デザイナーをやろうと思ったきっかけは、実は「みんながやるならやってみようかな」という軽い気持ちでした。それでも、実際に小合デザイナーの集まりが始まると、「小合中の意見を集めるためには何をしたらいいのか」や「その意見をどう人間像や生徒像に活かしていくのか」など、みんなで考えることが多くありました。また、代表として案を出したり、進行したりする機会もありました。小合デザイナーの活動をみんなで一緒に取り組んでいくうちにどんどん楽しくなり、わくわくしていききました。これからもわくわくを大切にしながら頑張っていきたいです。

小合デザイナー 代表 ○○ ○○ さん





日常の凡事においても

挑戦を繰り返し、「最高級のわくわく」を。

～後期の始業に向けて～



「わくわく」は原動力。
苦労や努力、仲間との協働の先に
さらに
「上質なわくわく」
が待っています。



○沿道から多くの声援
嬉しく、心地よく。
○まさか完走できるなんて…
自信 さらなる わくわく



「挑戦」「わくわく」って、
イベントや行事のみ？
○お弁当づくり
○ボランティア
○清掃
○当番活動
凡事
ほんじ ありきたりなこと 当たり前のこと

凡事を徹底する中に、
小さな「わくわく」が
あるのでは？
上質な「わくわく」の
基礎となるものが
あるのでは？

○お弁当づくり
○ボランティア
○清掃
○当番活動
凡事
にこそ
挑戦

<手だて>
行事、凡事への **挑戦**
<追求>
最高級のわくわく

小合デザイナーの活動が
始まりました。
皆さん、ぜひ、かかわって！
ぜひ、わくわく挑戦して！

後期始業式 校長講話
スライドより抜粋

前期終業式でこんな話をしましたね。みなさんが表現したのは「わくわく」。「わくわく」は原動力です。でも、苦労や努力、協働の先には、さらなる「上質なわくわく」が在ります。そして、次なる「わくわく」へと繋がります。…このことを実感できた前期でしたね、と。

私の話をさせて下さい。実は、つい先日開催された新潟シティマラソンに出場しました。マラソンとは縁遠い私です、もちろん初出場。そもそも走ること自体が○十年ぶり。結果、約10kmのファンランを、なんと完走することができました。思えば数年前、自宅から1.5km離れた原信へ徒歩で行くのにも息が切れました。自然が好き、建造物を眺めるのも好きな私なので、次第に散歩が趣味となりました。それでもマラソンは…。私にとって、とても大きな挑戦でした。当日は、沿道から驚くほどに多くの方々から声援を受け、とても嬉しくて。心地よくて。励まされて。中原八一市長や金メダリスト高橋尚子さんもハイタッチで応援してくれました。まさか完走できたとは。自信となり、また、さらなる「わくわく」を感じています。

みなさんも、前期に様々な挑戦をしたからこそその「わくわく」でしたね。さて、この挑戦や「わくわく」は、イベント、行事のみでしょうか。今、私は二人の我が子のお弁当を妻と共に作っています。本当は妻の方が美味しく作るので、でも、作りたい。気付くと、日々の当たり前となっています。みなさんも、例えばボランティア。当たり前に取り組んでいましたね。その他、清掃や様々な当番活動など。これらは、凡事(ほんじ)と言うのかもしれませんが。何を自身の凡事とするのかは、あなた次第です。ただ、その凡事を徹底する中にも「わくわく」はありますよね。「上質なわくわく」に繋がる、基礎となるものがあるのでしょうか。

行事に見事、挑戦した前期でした。後期は、日常の凡事にも挑戦している自分を自覚しませんか。そして挑戦を繰り返し、上質を超えた「最高級のわくわく」を追求しませんか。 小合中学校 校長 永井 歓

※ HP 掲載版 (生徒氏名と写真を修整しています)